

湯島聖堂漢文檢定

寺子屋編 論語

中級





子曰わく、

学まなびて時ときに之これを習ならう、亦また説よろこばしからずや。  
 朋とも有あり遠えん方ぼうより来きたる、亦また樂たのしからずや。

子曰、学而時習之、不亦説乎。  
 有朋自远方来、不亦樂乎。

(学がく而じ篇へん)

文章の意味

孔こう先生せんせいがおつしやいました。

「学まなんだことを、いつもおさらいを身みにつけていくのは、なんとうれしいことではないか。友ともだちが遠とほくからやつて来て、ともに学まなびあうのは、なんとたのしいことではないか。」

語句の解説

- 「学」は、「まなぶ」と読み、ここでは「親おやや友人ゆうじんの言葉ことばをまねながら身みにつけ、先生せんせいや人ひとから教えてもらう」という意味。
- 「時」は、「ときに」と読み、「いつも」という意味。
- 「習」は、「ならう」と読み、「教えてもらったことをおさらいして、身みにつけていく」という意味。
- 「説」は、「よろこぶ」と読み、「(身みにつけていくことが)うれしい」という意味。

- 「朋」は、「とも」と読み、「友ともだち」という意味。
- 「遠方」は、「えんぼう」と読み、「遠とほいところ」という意味。
- 「不亦乎」は、「またくずや」と読み、「なんとくではないか。」と感かん動どうをあらわす。

## 12

子曰わく、

父母ふぼは唯ただだ其その疾やまいを之これれ憂うれう。

子曰、父母唯其疾之憂。

(為い政せい篇へん)

文章の意味

孔こう先生せんせいがおつしやいました。

「お父とうさんとお母かあさんは、ただ自分じぶんの子こどもの病び気やうきのことだけを心しん配ぱいしている。」

\*「親おやは子こどもにいつも元げん気きでいてほしいと願ねがっている」という意味です。

語句の解説

- 「其疾」は、「そのやまい」と読み、ここでは「子こどもの病び気やうき」という意味。
- 「之」は言葉の順序をかえ、「其その疾やまい」を強つよめるための語ご。
- ここでは「之これ」ではなく「之これ」と表記する。
- 「憂」は、「うれう」と読み、「心しん配ぱいする」という意味。

13

子曰わく、

学びて思わざれば則ち罔し。

思いて学ばざれば則ち殆し。

子曰、学而不思則罔。思而不学則殆。

(為政篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「学ぶだけで、自分でよく考えないと、本当のことが、はっきりわからなくなるのだよ。(逆に)自分で考えるだけで、教えを受けたり、学ぶことをしないと、自分勝手な考えになってしまふのだよ。」

\*学問には「学ぶこと」と「考えること」の二つが必要だと言っています。

語句の解説

○「学」は、「まなびて」と読み、ここでは「先生からの教えを受けたり、書物を読んだりして、勉強する」という意味。

○「思」は、「おもう」と読み、「自分で考える」という意味。

○「罔」は、「くらし」と読み、「本当のことがはっきりわからない」という意味。

○「殆」は、「あやうし」と読み、「考えがたよったり、自分だけの考えになつたりする」という意味。

14

子曰わく、

由、女に之を知るを誨えんか。

之を知るを之を知ると為し、知らざるを知ら

ずと為す。

是れ知るなり。

子曰、由、誨女知之乎。

知之為知之、不知為不知。

是知也。

(為政篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「由よ、おまえに知るといふことを教えようか。知っていることを知っているとし、知らないことを知らないとする。これが知るといふことだ。」

\*知らないことを知っていると、すなおな気持ちで学ぶことが大切だ、と言っています。

語句の解説

○「由」は、「ゆう」と読み、孔子の弟子。姓は仲、名は由、字は子路。

○「女」は、「なんじ」と読み、「君」や「おまえ」という意味。

○「誨」は、「おしう」と読み、「教える」という意味。

子曰わく、

唯だ仁者のみ能く人を好み、能く人を悪む。

子曰、唯仁者能好人、能恶人。

(里仁篇)

文章の意味

孔先生がおつしやいました。

「ただ思いやりのある人だけが、(公平な心があるから人を大切に思うことができるので) 善人をこのみ、悪人をにくむことができる。」

語句の解説

- 「仁者」は、「じんしゃ」と読み、「思いやりのある人」という意味。仁者はいつも公平な心を持つている人のことをいう。
- 「好人」は、「ひとをこのむ」と読み、「善人をこのむ」という意味。
- 「悪人」は、「ひとをにくむ」と読み、「悪人をにくむ」という意味。

子曰わく、

君子は終食の間も仁に違うこと無し。

子曰、君子無終食之間違仁。

(里仁篇)

文章の意味

孔先生がおつしやいました。

「君子はご飯を食べるくらいにわずかな間でも仁から離れないものだ。」

語句の解説

- \* 「君子」は、「人から尊敬されるようなりつばな人」のことで、勉強や学問ができるだけでなく、リーダーとして活躍できる人のことをいう。
- 「君子」は、「くんし」と読み、「立派な人物」という意味。
- 「終食之間」は、「しゅうしょくのかん」と読み、「食事をするほどの時間」「短い時間」という意味。

17

子曰わく、

父母在せば遠く遊ばず。遊ぶに必ず方有り。

子曰、父母在不遠遊。遊必有方。

(里仁篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「お父さんとお母さんが元気でいらつしやるときには、子どもは、遠くに行つて、心配をかけないようにしよう。出かけても必ず行き先をはつきりさせよう。」

語句の解説

○「在」は、「います」と読み、「生きていらつしやる」という意味。

○「遊」は、「あそぶ」と読み、「行く」と同じ意味で使われている。ここでは、「遠く遊ばず」となっているので、「遠くまで行って、父母に心配をかけてはいけない」と言っている。

○「有方」は、「ほうあり」と読み、「行き先をはつきりさせる」という意味。

18

子夏曰わく、

商之を聞く。「死生命有り、富貴天に在り。」

子夏曰、商聞之矣。

「死生有命、富貴在天。」

(顔淵篇)

文章の意味

子夏が言いました。

「わたくし(商)は、『死ぬことも生きること、人の思いどおりにならないさだめがあり、金持ちになつたり王さまのような高い位につくことも運命による』と聞いています。」

語句の解説

○「子夏」は、「しか」と読み、孔子の弟子。姓は卜、名は商、字は子夏。

○「命」は、「めい」と読み、「運命」という意味。

樊遲仁を問う。

子曰わく、人を愛す。

樊遲問仁。子曰、愛人。

(顔淵篇)

文章の意味

樊遲が、仁について孔先生にたずねました。  
孔先生がおっしゃいました。  
「他の人を思いやることだよ。」

語句の解説

○「樊遲」は、「はんち」と読み、孔子の弟子。姓は樊、名は須、字は子遲。

子曰わく、

性は相近きなり。習いは相遠きなり。

子曰、性相近也。習相遠也。

(陽貨篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。  
「人が生まれつき持っているものには、それほど差がない。生まれた後の学習で、人によって大きく差がつくものだよ。」

語句の解説

○「性」は、「せい」と読み、「人に生まれつき備わっているもの」という意味。  
○「習」は、「ならい」と読み、「人が生まれた後で身につけるもの」という意味。

湯島聖堂漢文検定 テキスト

寺子屋編 論語 中級

編集 湯島聖堂漢文検定編集委員会

発行日 令和六年六月一日 初版発行

刊行 湯島聖堂漢文検定編集委員会

東京都文京区湯島一の四の二五 湯島聖堂構内

制作 朔工房

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は禁じます